

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願ひいたします。

◆市長

はい。よろしくお願ひいたします。本日初めに台風15号への対応状況について報告をします。まずは清水区の断水についてです。ご承知の通り、10月6日の木曜日の夜に和田島ブロックの北地区への飲用可能な水の供給をもって断水を解消することができました。その間ご不便をおかけしました市民の皆さんにおわびを申し上げるとともに、取水施設の復旧作業や給水作業など多くのご支援をいただきましたことに対し、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

次はスライドを使って説明をいたします。宅地内の土砂、がれき等の撤去についてであります。これは宅地内の土砂を早期に撤去していく目的で建設局、都市局、環境局、経済局の局間連携からなる宅地内土砂対策チームを発足したものであります。さっそく7日から撤去してほしいという申し出の受け付けを開始したところ、昨日、10日の午後までに284件の依頼がありました。8日の土曜日からは現地調査もスタートしております。まずはご相談をさせていただくことによって、被災された市民の皆さんに安心感を持っていただければうれしいというふうに思います。それぞれの被害状況に合わせて静岡市による撤去、ボランティアセンターとの連携などワンストップで対応することによって、一日でも早く被災者の皆さんが元の生活に戻ることができるよう、全力で土砂の撤去を進めてまいります。

次は、これは初めての情報提供だと思いますが、被災者支援窓口の開設についてです。本日から被災された皆さんの状況に応じてきめ細やかな対応を一体的に行えるよう、総合的な被災者支援窓口を3区、各区ごとに開設いたしました。床上浸水等の被害に遭われた方への災害見舞金などの制度のご案内や申請の受け付け、先ほど説明いたしました宅地内の土砂、がれき等の撤去についてのご相談を受け付けます。一方、公民連携で静岡県災害対策士業連絡会あるいは静岡県行政書士会の協力を得て、同じ会場で弁護士さん、司法書士さん、建築士さんなどの専門家による無料の相談や手続きの支援も実施をいたします。さらに、被災された皆さんの生活復旧のための支援の情報をまとめた被災者支援制度のご案内を作成いたしました。これは市の公式ホームページに掲載すると

ともに市関係施設などで配布をしていきます。Twitter、LINE、Facebook等でも発信したいと思いますので、ご活用をいただきたいと思います。

最後は災害ごみについてです。災害ごみについては清水区の大内新田の市有地に2つ目の仮置き場を開設し、これも昨日、10日から受け入れを開始しております。一方、公園などに出していただいた災害ごみの収集については消防団の団員の皆さん、あるいは全国から集まってくださった自治体の皆さんの協力も得て体制を強化することができました。ありがとうございます。この結果、生活環境上問題がある公園などの大きな集積所だけでなく、その他の集積所などの災害ごみの収集も当初の計画を前倒しして、このスライドのように完了できる見込みとなりました。こちらの写真にあるように大量に積み上げられていた災害ごみもなくなり、通常の公園の姿に戻りつつあります。収集が終了した公園などは集積所を閉鎖し、消毒し、土壌の入れ替えをし、そしてフェンスの修繕などを経て、元の使用状態に戻してまいりますので、閉鎖後はごみをお出しにならないようご協力をお願いいたします。そして、こちらのスケジュールにあるように集積所にお出しいただいた災害ごみの収集については、当初は今月末の完了を目指しておりましたが、木曜日、13日までに完了できる見込みとなりました。今後は地域の集積所に出すことができず、ご自宅に残っている災害ごみの収集を進めてまいります。清水区の浸水の被害に遭われた地域ごとの一斉収集を14日の金曜日から16日の日曜日にかけてスピード感を持って実施いたします。さらに、ご自宅から災害ごみを運び出すことができない方や一斉収集に間に合わない方、あるいは葵区、駿河区にお住まいの方については個別にご自宅を訪問しての収集をいたしますので、お電話あるいはインターネットでお申し込みをいただきたいとお願いいたします。

以上も踏まえ台風15号による被害に対して緊急的に対応が必要な取り組みについては、2回目の追加となる補正予算を編成をしました。これを9月の定例会へ提出いたします。今回提出する補正予算の規模は一般会計が約105億2,118万円の増額、特別会計が5,250万円の増額、企業会計が1億2,037万円の増額、総額では約106億9,405万円の増額であります。今回の補正予算は被災者、被災事業者への支援と、インフラ、公共施設の復旧という2つの柱の下に編成してあります。柱ごとに主な取り組みを紹介します。

一つ目の柱、被災者・被災事業者への支援の下では、まず2万トンを超える大量の災害ごみの回収、あるいは処分のための大型仮置き場の設置、災害ごみの運搬、処分に要する経費を計上しました。また、約8万件のご家庭、事業所で断水が発生し、浸水被害も約6,000件生じているということ想定しておりますので、これも発表した通り断水、浸水被害に遭われた皆さんの負担を軽減し、日常生活

を取り戻していただくための一助となるよう水道料金等の負担を軽減させていただき予算を計上しました。

さらに被災した世帯に対しまして、家屋の応急 修理や災害援護資金の貸し付け、生活必需品や学用品の給与などを実施いたします。

次に被災した中小企業、個人事業主の皆さんに対して事業継続の一助となるよう、まずは10万円の支援金を支給させていただきます。

さらに、被災した中小事業者が復旧や当面の運転経費として借り入れる対策資金の償還に対して、県と協調して利子補給を実施します。今回は借り入れから3年間、実質無利子となるよう市が上乘せの支援を行いますので、ぜひご活用をください。

一方、市内各所の農地で土砂崩れや土砂の流入、冠水、浸水などの被害も生じています。被災した農業者の経営がいち早く再建できるよう、農地の原状復旧に要する経費の2分の1、上限は100万円までを助成させていただきます。

続いて、2本目の柱、インフラ・公共施設の復旧についてです。先月29日の時点で道路では540路線892カ所、河川、水路等では353本372カ所の被害が確認されており、他にもさまざまなインフラ被害を受けています。さらに、市営住宅や小中学校など多くの公共施設でも土砂の流入や各種設備の損傷などが生じています。これらの復旧に要する経費を計上します。今回は9月定例会の会期中という限られた時間の中で応急的な復旧など、緊急的に対応が必要な経費について計上しましたが、今後も引き続き被害の把握に努め、本格的な復旧に要する経費も含め十分な対策を予算に計上していきます。そして、今回の補正予算編成の結果、令和4年度の予算額の累計は一般会計が約3,691億円、特別会計と企業会計を合わせた総額では約6,884億円となりました。

結びに、まだ台風シーズンは続きます。先週末には断続的に雨が降りました。台風15号で土砂災害などの被害を受け、二次的な災害が発生するリスクが高い地域に、先週の金曜日から今週の月曜日にかけて合計3回大雨注意報の発表に伴う避難指示を発表いたしました。空振り覚悟の上で注意報のレベルで避難指示をするということを励行して、命を守る取り組みを強化したいと思います。土砂災害の被害報告などあった221カ所の現地調査を進めていきます。もうしばらくの間、出水シーズンが続く間、今月中が一つの目途でありますけれども、早めの避難行動を心掛けていただきますようお願いをいたします。私からは以上です。

◆司会

それでは本日の発表案件台風15号関連ということで、幹事社質問も2問いただしているうちの1問は台風15号関連ということになりますので、先に幹事

社質問のほうをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

◆中日新聞

幹事社の中日新聞です。よろしくお願いいたします。台風15号に関して清水区の断水についてなんですけど、清水区の断水による水不足の深刻性を市長が認識されたのはいつになりますでしょうか。26日に開かれた災害対策本部会で医療機関であったり福祉施設で水不足が深刻という意見が出て、それを受けて自衛隊の派遣要請を急ぎよ決めたという情報もありますが、これは事実でしょうか。

◆市長

順次お答えをいたします。まず断水の長期化という意味では、24日の午後3時頃にはその深刻性を認識しておりました。その時、断水の理由が取水施設の被災によるものという報告を受けたところであります。しかしながら、断水地域での給水活動については24日から10台の給水車を配備し、25日の夜の時点で日本水道協会等を通じ各自治体などの応援も得た活動が行われており、26日以降の見通しも含めて、飲料水の給水体制は整えられつつあると認識しておりました。一方で、自衛隊への派遣要請についても24日の土曜日から市内山間地域で崩落土砂撤去や断水への対応など、派遣の三要件、緊急性、非代替性、公共性を考慮した上で、その必要性や支援をいただく内容を検討しておりました。また、市と県の担当者の間でも派遣要請にかかる内容の相談、協議を行っておりました。したがって、26日の段階で急ぎよ自衛隊への派遣要請を決めたわけではありません。翌26日の8時30分からの災害対策本部会で所管局から清水病院などの医療機関の水が不足するとの報告を受け、さらに緊急性が高まったと判断し、県を通じて自衛隊による派遣要請を行うことを決定したしだいでありませぬ。

◆中日新聞

2問目なんですが、断水への対応であったり集落の孤立など、情報の共有であったりすり合わせが市役所内で十分に行われていなかった印象がありますが、原因と市長の受け止め、今後の対応について教えてください。

◆市長

今回の台風では市内各所で大規模な被害が発生したため、市の職員も情報収集と災害対応に追われる中、市民の皆さんから非常に多くのお問い合わせやご要望が寄せられました。その中で今何が起こっていて市民の皆さんが何を

求めているのか、その情報の収集と整理が重要でありましたが、情報管理の手順や方法が明確にされておらず、市役所内での情報の共有やすり合わせも不十分であって、市民の思いに応えきれなかったと反省をしております。今後は情報管理の方法について詳細な検証を進め、今何が起きていて市民の皆さんが求めていることはなんなのか、という情報を速やかに収集、整理して市役所内部で共有する体制を確立してまいりたいと思います。その検証結果と対策については後日、公表いたします。

◆中日新聞

ありがとうございます。幹事社から以上です。

◆司会

それでは、ただ今までのところで皆様からのご質問をお受けしたいと思います。先に朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。よろしくお願いします。今の台風の対応についての関連で少しお伺いしたいんですが、これまでの説明によりますと、金曜から土曜にかけての大雨という中で、土曜日は市長ご自身は自宅待機をされた後、市長室で陣頭指揮を執っていたということはお伝えいただいていると思うんですけども、なぜこの土曜、日曜の間に災害対策本部会議を開くことができなかったのか、今、情報共有の話が出ましたけれども、そこにも通じるかと思いますが、そうした会議を開くことで情報が集約されるということもあるかと思いますが、これは、どうして土曜、日曜で開くことはできなかったんでしょうか。

◆市長

まず土曜日は朝から危機管理総室中心に市内全域の被害状況の確認をいたしました。その状況が未曾有の災害、七夕豪雨以来の被害だったということに遭遇をしたということ、朝の時点でずいぶん情報収集の指示をしましたが、そのことが、我々、経験が足りなかった。私を含めて経験が足りなかったということも反省をしておりますが、そういう中で、まずは収集をして関係職員の間の中でなんとか土曜日の間に対応できるものではないか、というふうな結論に至って、私土曜日は陣頭指揮を執ったわけであります。

◆静岡朝日テレビ

実際に土曜日の時点で災害対策本部会議を開いていればまた状況は変わった、あるいは対応のスピード感ってというのは変わっていたというふうに思いますか。

◆市長

あの時はもう本当に40年ぶりの被害でありましたので、また、本部会を招集するというのは、また、その手続き等々時間がとられます。それよりも情報の収集と当面応急の対応に当たるということのほうが、大事だというふうに私は思いました。

◆静岡朝日テレビ

分かりました。これについては大丈夫です。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。今の静岡朝日テレビさんの質問に関連して、自衛隊をどうして土日の間に呼ばなかったのかということ、やはり清水区民の方中心に、ずっと疑問に思われているわけですが、どうして週明けの判断にしようと、土日に呼ぼうってならなかったのかももう一度ご説明いただけますか。

◆市長

これは先ほど申し上げました通り、県の危機管理の職員の皆さんと情報共有はしてましたし、断続的に自衛隊の派遣要請の件についての議論は行われておりました。ただ、結果的に派遣要請のタイミングとしては適当であったと、私は思います。自衛隊の災害派遣は自衛隊法において都道府県知事が災害に際し防衛大臣などに派遣を要請し、要請を受けた大臣などが緊急性、非代替性、公共性の3つの要件を総合的に勘案し、判断し、やむを得ない事態と認める場合に部隊等を派遣することを原則としております。このため、市としても給水活動を行うとともに3つの要件の考え方を考慮した上で、派遣要請の必要性や支援内容を検討しておりましたが、断水の影響により水が絶対的に不足をしていたため緊急性の観点から、まずは応急給水活動や取水口の流木の撤去について要請し、その後、災害廃棄物のうち特に発火等の危険性の高い箇所について撤去を要請したといういきさつであります。ご理解をお願いします。

◆NHK

この辺りもちよっといろいろ情報がいまだに整理されてないところなんですが、土日の段階、24、25の段階では県から、「自衛隊を派遣しましょうか、どうしますか」という投げかけ、打診はあったのか。それとも県から、もうそこまでの打診もなく、「自衛隊どうしますか、まだいいんじゃないですか」ぐらいの協議だったのか。どういった温度感だったんでしょうか。

◆市長

私のところにはありませんでした。

◆NHK

危機管理総室いかがですか。

◆危機管理統括監

危機管理統括監の梶山でございます。市長の説明の通り打診というレベルではなくて、何ができるんだろう、何を要請することができるんだろうということで担当者のレベルで協議していた、相談していたという状況です。

◆NHK

もうすでに一部の報道で県からの打診を市が、「まだいいですよ」と断っていたかのような表現もされていますけれども、それは違うということでしょうか。

◆危機管理統括監

私の認識としてはもう協議ということで、いろんな項目が考えられるとは思いますが、先ほどの3つの要件に合致するものということで、何を要請すべきなのか、というところを協議していたというところでございます。

◆NHK

統括監、ありがとうございます。そして、要請に至った26日の話の中で自衛隊を呼ぼうとなったのは、まず先に給水の話があって、その次に、「じゃあ取水口も」となったという、こういう話の順番だったということによろしいですね。

◆市長

そうです。

◆NHK

ありがとうございます。そして、もう一つが、それにしても「知事と市長不仲だから遅れたんだ」と、もう前も言いましたが、既成事実化して市民の間で語られているわけですがけれども、不仲で影響与えたかどうかは別にして、いわゆるホットライン、例えば、気象台長からはおそらく市長のほうに直接、「こんな状況ですよ」という電話あったと思うんです。気象台が能動的ホットラインと言っていますが、ちょっとその電話のことは私分かりませんが、そのように知事と市長の間で、「今、そちらどうですか、何か支援必要ですか」と、気軽なというか、そういったお互いを気遣い合うような電話、メール、LINE等々なかったということですね。

◆市長

なかったということが残念です。

◆NHK

残念です、というのは知事からなかったのが残念ということですか、それとも市長から自分がそうしなかったのが残念ということでしょうか。

◆市長

両方あります。ただ先ほど来申し上げている通り、市の職員と県の職員は断続的に議論をしていたということですので、それはぜひ発信をしていただきたいというふうに思います。

◆NHK

おっしゃることは、もちろん組織対組織でやっていらっしゃることは、よく分かるんですけれども、一方で、市長は流木1本撤去する、あるいは、水を1杯給水する、ということをやられるわけでもない市長に対して、市民が期待しているのは、そういった関係機関への直交渉で連携の輪を広げていくことが一つあるとは、私は思っていますけれども、どうして道路1本隔てた100メートル向かいにいる知事と電話1本しないのでしょうか。

◆市長

今振り返って批判をするということは、私は避けたいと思いますけれども、じりじり待っていたのなら知事から1本電話をいただきましたかった、というふうな気持ちはあります。月曜日、副知事と話をした後、私から知事に対して電話し、そして、派遣の要請をいたしました。

◆NHK

知事側に求めるご意見も当然あっていいかと思いますが、市長から、「今、こんな状況なんですよ、取りあえずご認識ください」という、「断水がこんなに広域におよびそうなんですよ」と、電話することは考えなかったのでしょうか。

◆市長

それは先ほど説明をした通り、日水協からも給水車が駆けつけてくれるということと、あと、全国市長会のチャンネルでも給水車を増派してくれるということがありましたので、これでなんとか間に合うのではないかというふうに想定をしましたので、その時、私から知事に電話をするということはいたしませんでした。

◆NHK

すいません、あと3つ伺いますね。26日に地方自治法（注：正しくは災害対策基本法）に基づく自衛隊、災害派遣の県知事に対する要求を法律行為として行うのは分かるんですけども、それ以外のフランクな行為として、電話連絡1本もしない関係であることを、今、市民は嘆いているわけですが、そこにはどう答えられますか。

◆市長

首長間は携帯電話でやりとりをするということが常識なんですね。県内の首長あるいは全国市長会の会長、全部携帯電話で話をします。しかし、知事とは携帯電話ができません。知りません、私、携帯番号を。かつて教えてもらおうと思ったことがありましたけれども残念ながら教えていただけませんでした。ですので、なかなか知事と、こういう緊急時に連絡をすることができないという状況が続いていて、今回の災害に遭遇してしまったといういきさつであります。

◆NHK

すいません、携帯、LINEつながってないのはもうそれも嘆かわしいですけども、にしても、26日に法律行為として自衛隊要求の電話、おそらく向こうの秘書課通じてやったわけですから、固定電話でいいんじゃないですか、電話しようと思えば。

◆市長

それはその時、先ほど申し上げた通り、断水についても私たちの想定が甘かった

という反省はしておりますけれども、なんとか給水車で賄えるというふうに判断をしていたということでもあります。

◆NHK

世間的に言われている知事と市長は不仲であるという、これはもう、その通りですと、お認めになりますか。

◆市長

そうですね。こういう緊急時にお互いを気遣って電話をし合うという関係はできておりません。

◆NHK

私から最後ですが、25日、日曜日午前中の行動についてです。そのような中で市長は敬老会に出席され、打ち上げ花火の行事に参加されたことについて、10月5日の会見では、「視察に行く状況が揃うのがお昼ごろだったので、午前中の時間を有効に使わせてもらいました」とおっしゃいました。この午前中の時間を有効に使ったというのは、どういった意味合いだったんでしょう？

◆市長

これは組織としての対応をいたしました。被災箇所の現場対応などの都合により視察が可能になったのが、正午からというふうに聞きました。午前中は災害対策本部から各班に情報の収集と今後の対応について、指示を出し現状把握に努めている傍ら、その間も秘書課と何度も話をしております。そして、それぞれ副市長、局長、それぞれ現場での対応を行った役割分担の中で、私は以前から約束をしていた敬老会や草薙龍勢のあいさつに行きました。しかし、短い時間、あいさつのみであります。

◆NHK

24日午後3時に大規模断水が発生すると認識していたのであれば、25日午前中の行事については代理を立てる、あるいはお断りをして災害対策に専念するという判断、おそらく大多数の草薙や三番町の市民の皆さんも、そうしてもらうことを望んでたんじゃないかなと思うんですが、市長、いかがでしょう？

◆市長

市民の皆さんから厳しい声があるのは私も十分承知をしております。その時点

で把握できていた情報を基に、適切な判断をしたつもりでおりましたが、市民の思いに寄り添うという視点で適切であったのか、その声を真摯に受け止めたいと思います。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

その他、台風15号関連でいかがでしょうか。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

朝日新聞です。今回の台風15号の、要するに市がはじき出している被害総額、100億円の今回一般会計からの充当でございますけども、今後、これ応急措置というふうに先ほどおっしゃってましたので、その総額というのは、今どれぐらいの推定でいらっしゃいますか。

◆市長

今、経済局を中心に積み上げているところですが、現時点ではまだ総額が、財政局長、まだですね、総額がいくらということは今後お知らせしたいと思います。

◆司会

その他いかがでしょうか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。よろしくお願いします。

◆市長

お願いします。

◆テレビ静岡

先ほど知事との連絡については携帯の電話番号以前教えていただけなかったというようなお話がありました。さりとて、市長、先ほど全国市長会のお話、されていましたがけれども、県内市長会ありますし、例えば、市議会の方、県議会のお知り合いも多々いらっしゃる中で携帯の番号を知る努力というのは、し得たと思うんですけれども、市長のお知り合いの中にも川勝知事の携帯の番号知っている方いらっしゃったかと思うんですけれども、こうした努力をする

必要性、こういう災害が受けることを想定して、未然に従前から知っておく必要性ってこの感じなかったのでしょうか。また、そうした知事の番号を知るという努力はしてこなかったのでしょうか。

◆市長

今、その必要性をととても感じております。発災4日後に岸田総理の指示で星野内閣府副大臣が現場を視察をしてくださいました。そして、激甚災害の指定を要請するというので、県知事とご一緒していたわけですがけれども、その時にも市と県でそれぞれ要請書を渡したあと、私、県知事に、「この経験を基にこれからは連携を深めていきましょう」と、私から知事に声を掛けさせていただきました。

◆テレビ静岡

あと、後段の質問でこれまで知事の番号を知る努力をしてこなかった理由というのはどういったところなんですか。携帯の番号って、別に知事から教えてもらわなくても、例えば、市長はたぶん私の携帯を知らないでしょうけれども、私は市長の携帯の番号を知っているのと同様に、たぶんルートをいろいろ辿れば川勝知事の番号って、どうとでも政治家の皆さんだったらなると思うんですね。例えば、鈴木康友市長に聞くとかもできたと思うんです。それで言えば別に災害が起きてからでもできたと思うんですけれども、もちろん知事が教えなかったっていうのも、それはそれで人間性としていかなものか、とは思いますが、それとは別に、市長が知事の携帯の電話番号を入手するという、出る出ないは、もう知事の勝手だと思えますけれども、知らない番号からになると思うので、出る出ないは知事の勝手だとは思いますが、その知事の携帯の番号を知ろうとする努力をしなかったっていうことについても、ちょっと疑問視せざるを得ないんですけど、そこについてはどうなんでしょうか。

◆市長

教えていただけないんですよ。副知事とは携帯でつながるんです。

◆テレビ静岡

副知事じゃなく知事、教えてもらえなくても、例えば、さっきも申しあげましたけれども、市長が私の番号を知らなくても、私は市長の携帯番号を知っているわけです。それはいろんなルートとか辿った中で知り得たわけです。そういったことは市長としても川勝知事の番号を知るっていうことはできると思うんですね。さっき申しあげましたけれども、たぶん鈴木康友市長だったら携帯の

番号知っていると思いますし、他の県議会の方だって知っている方いらっしゃる中で辿る努力をしなかったんですか。それとも、したけれども知り得なかったんでしょうか。

◆市長

したけれども知り得なかったということです。どれだけ他の県議さん、首長さんが知事の携帯の番号を知ってるかどうかは、また私は存じ上げません。少ないんじゃないかなというふうに思います。これ、調べてみてください。

◆司会

その他いかがでしょうか。朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

台風15号の影響の災害ごみの大規模置き場についてお伺いしたいんですが、今週から2カ所目の大内新田を開設されたと思います。浸水被害の多かった巴川流域に、より近い災害ごみ置き場になったかと思えますけれども、ここはもともと市の所有地であるということで、住民の皆さんに聞くと「ENEOSの遊休地よりも、先にこちらのほうが市の土地であったのもっと早く開設できたのではないか」という声も上がっているんですけども、その辺り、どうしてこういうタイミングというか、こういう順番になったんでしょうか。

◆市長

市有地です。そういう考え方もあろうかと思いますが、一方で住宅地の真ん中にあるんですね。ですので、その近隣対策が必要です。ご理解をいただかないとあのようなごみの集積所にはなり得ないと思います。その点、ENEOSさんは周りが住宅地ではありません。ですので、ごみを持ち運びやすい環境にあるということでこういう結果になったということ、ぜひご理解いただきたいと存じます。

◆静岡朝日テレビ

実際、最初に、じゃあ開設しよう、っていう俎上に上がったのかどうか、やっぱり、ここまで、じゃあ2カ所目として開設するにあたって、住宅地であるということで交渉があったのかどうか、その辺りはいかがでしょうか。

◆市長

環境局長中心にその辺りは必死に交渉して、どちらもかなり早くオープンでき

たというふうに判断していますが、環境局長、そこら辺を補足してください。

◆環境局長

環境局長の田嶋です。仮置き場についてはENEOSさんの土地も、市の市有地の大内新田も同じ時期に交渉をはじめて協議してまいりました。先ほど市長が言われたように、やはり地元の方の賛成、反対意見ありますので、そのちょっと調整に少し時間がかかって、大内のほうは少し遅れたという結果になりました。以上でございます。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

その他台風15号関連のご質問はいかがでしょうか。よろしいですか。では、幹事社質問の2問目をお願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。幹事社質問2問目、ちょっと質問内容大きく変わるんですけど、プロ野球2軍創設構想について、静岡市を本拠地とするプロ野球創設構想が浮上していることが一部で報道されましたが、先月のプロ野球オーナー会議後の会見で、山口議長が継続審議としていることも明らかにしましたが、静岡市としての受け止めに教えてください。

◆市長

オーナー会議の山口議長は、私も報道によれば、ということでありますけれども、その会見で野球界全体の発展に向けて検討継続をするというふうに話された上で、具体的にはお知らせできる段階ではないとの意向を示されたと、承知しています。よって、静岡市は日本野球機構、NPBから話を聞いておりませんので現時点でお答えできる段階ではありません。

◆中日新聞

ありがとうございます。もう一つですが、市長は地元球団の創設を選挙公約に掲げて、これまでもプロ野球の関連行事をNPBに働きかけ積極的に招聘してきましたが、構想に期待することとかはございますでしょうか。

◆市長

まず、NPBから話を聞いておりませんので、現時点でお答えできる段階にないということは、ぜひご理解をいただきたいと思います。NPBでの議論がこれから推移をしていくと思われまますので、それを見守ってまいりたいと思います。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

このご質問に関連してのその他のご質問ありますでしょうか。よろしいですか。それでは、その他のご質問があればお受けしたいと思います。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。すいません、これもちょっと知事との関連性に関わるかもしれませんが。先日、県市長会で川勝知事がリニアへの試乗を提案されたそうですが、田辺さんはこれに参加されるつもりはありますでしょうか。

◆市長

私はすでにリニアに一度試乗しておりますので。

◆読売新聞

そうですか。

◆市長

はい。

◆読売新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

先日、静岡市の大きなイベントである大道芸ワールドカップのプロデューサーが解任され、実行委員長が辞任するということがありました。外国人差別に当た

るんじゃないか、というような話とか資料があった、あるいはコンプライアンスの欠如があったという理由からですけれども、実際の、元プロデューサーとなっていた奥野さんという方なんですけれども、奥野さんを推薦する中で、市長からの、過去お声掛けもあったというような話も出ていますけれども、実際、そのプロデューサーである奥野さんの推薦に田辺市長は関わっているのか、関わっているとすれば、どう関わったのかということを、まず教えていただきたいです。

◆市長

まず、残念です。この奥野さんの発言は断じて容認できません。多文化共生、SDGs未来都市を標榜している静岡市の大道芸のプロデューサーにはふさわしくない、というふうに私は断言せざるを得ません。また奥野さんのことは、SPACの劇団員でプロデューサー、あるいは地域のイベントにも積極的にコミットしてくださっているということは承知をしておりました。ただ、個人の思想までは承知をしておりませんでした。そして、今回、私のほうから声掛けがあったり推薦をしたということがあるかということは、それはありません。実行委員会に選考は任せておりました。

◆静岡朝日テレビ

この件に絡んで、実際そのイベントの開催の可否を今、検討しているという、今月に決めるということですからけれども、市長ご自身はこのイベントの開催については、どんなふうに今、お考えでしょうか。

◆市長

3年ぶりの開催です。多くの市民の皆さんが開催を楽しみにしているという声も私の下に届いております。第一義的に開催の可否については、協議を進めている実行委員会の判断を尊重したいと思いますが、私個人としてはこの難局を乗り切って、ぜひ開催してほしいと願っております。

◆静岡朝日テレビ

今回のこうした解任劇、あるいは委員長が辞任するといったことは、これまでずっと続いてきた大道芸ワールドカップという大きなイベントに対して与えた影響についてはどんなふうに考えていますか。

◆市長

影響というのは、今後に向けてという意味ですか。

◆静岡朝日テレビ

今後に向けてもそうですし、大道芸を毎年楽しみにしてくださっているファンの方ですとか、アーティストの方がた、皆さんにとって、ということに対する影響ということです。

◆市長

それは、もう秋の静岡市の風物詩として定着をしておりますので、今回の奥野氏の発言がそれに水を差してしまったということは、本当に残念だなというふうに思います。また、組織のあり方等々、課題も浮き彫りになりましたので、この後、私どもとすると一度立ち止まって、今後の大道芸、どうあるべきかという議論はしていく必要があると私は思います。

◆静岡朝日テレビ

市から補助として税金も使われていると思いますけれども、今、組織に問題があること、課題も浮き彫りになったということですが、具体的には田辺市長が考える組織の課題というのは、どういう点だと思われますか。

◆市長

やっぱりガバナンスの徹底でしょうね。風通しのいい組織になっているのかどうなのか、特定の方に権限が集まっているのかどうなのか、いろんな問題点は今回浮き彫りになったのではないかなというふうに思います。その組織のあり方も含めてこれからの大道芸どういう、静岡市、もともと、まちは劇場の推進という3次総の5大構想は、大道芸のような、あの11月初旬のにぎわいを、年から年中ヨーロッパの都市のように、大道芸あり、音楽あり、演劇あり、パフォーマンスありという、そういう街にしてほしい、そして、それに人が集まってもらって地域経済の活性化にもつながってほしい、そんな原点のイベントでありますので、この問題点をここで検証をする意識、そして、私自身も若い時代から大道芸で大変いろんな思い出がありますので、将来、大道芸はぜひ継続をしていきたいという思いがあります。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

ごめんなさい、台風に戻ります。今、特に清水区民の方の間では、もう水族館とかいいから取水口を複数作るですとか、安心、安全のほうを優先してくれよ、という意見、顕然としてあるわけですけれども、この辺り、市長はどうお答えになりますでしょうか。

◆市長

それはいろんな意見があろうかと思います。

◆NHK

特に安心、安全、取水口の確保、複線化をするために今、市長が考えている大型事業をいったんペンディングにしようというお考えはないですか。

◆市長

議会とも議論をしたいと思います。

◆NHK

現に海洋ミュージアム、入札がこれで本当に入札といえるのかどうかというぐらい乏しい数しか参加表明がないわけですけれども、このまま11月に向けて進められるのでしょうか。

◆市長

それは、3次総の履行というのは、私の責任でもありますので前に進めていくべきだと思います。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

それでは45分を近づいておりましたが、では、最後ということでよろしいでしょうか。では朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

すいません、大道芸フェスティバルの関連で。3回ほど今お休みしてますけれども、市からの補助金っていうのは額的にどれくらい出してらっしゃるのか、分か

る範囲でも、つかんでいらっしゃるのか、教えていただけますか。

◆市長

観光交流文化局長。

◆まちは劇場推進課長

まちは劇場推進課長、鈴木でございます。額面で、概略ですけども1億円程度を補助金として出しております。

◆朝日新聞

すいません、これの運営費のどれぐらいの額の充当に？何割とかいうことでしょうか。

◆まちは劇場推進課長

基本的には2分の1でございます。

◆司会

ありがとうございました。それでは、お時間もまいりましたので、本日の会見はここまでとさせていただきます。次回は10月28日、金曜日、11時からの予定となっております。本日はありがとうございました。